

2025 年度
データサイエンス+R プログラム
(基礎・応用基礎)
自己点検・評価報告書

0、対象科目について

基礎レベル、応用基礎レベルともに対象となる科目は以下の通りである。なお、本報告書は公開を前提にしているため、数値については、クラスごとに集計するのではなく、プログラム対象科目をまとめて集計している。

<基礎>

情報技術と社会

情報倫理と情報技術

IR18-AE114 Data literacy for research design

Introduction to Experimentation

Professional Ethics

LAST 2010 Special Lecture (Science and Technology)

<応用基礎>

データサイエンス・AI 基礎

データエンジニアリング基礎

Foundations of Data Science and AI

Foundations of Data Engineering

1、プログラムの履修・修得状況

1) 評価の観点

当該項目は、展開している科目の履修者数・成績評価（単位修得状況）から自己点検評価を行う。

2) 現状と評価

2025年度までの履修者数・修得者数の状況は以下の通りである。

<基礎>

科目名	2022年度			2023年度			2024年度			2025年度		
	履修者数	修得者数	修得率	履修者数	修得者数	修得率	履修者数	修得者数	修得率	履修者数	修得者数	修得率
情報技術と社会	1057	889	84.1%	950	810	85.3%	789	662	83.9%	502	418	83.3%
情報倫理と情報技術	436	411	94.3%	449	432	96.2%	424	406	95.8%	406	378	93.1%
IR18-AE114 Data literacy for research design	34	29	85.3%	12	10	83.3%	16	10	62.5%	22	15	68.2%
Introduction to Experimentation	62	52	83.9%	66	50	75.8%	67	58	86.6%	63	50	79.4%
Professional Ethics	59	53	89.8%	70	67	95.7%	75	70	93.3%	62	57	91.9%
LAST 2010 Special Lecture(Science and Technology)				23	21	91.3%	19	19	100.0%	54	48	88.9%
Algorithm and Programming	55	52	94.5%	2023年度以降は対象外								
Social Change With AI	16	14	87.5%	2023年度以降は対象外								
合計	1719	1500	87.3%	1570	1390	88.5%	1390	1225	88.1%	1109	966	87.1%

基礎レベルの履修者数は、2024年度の1390名から281名減の1109名となった。クラス数は2024年度から変更はなかったが、結果的には履修者数減となった。クラス別で履修者数にばらつきが見受けられるため、履修については学生の時間割や基幹時間割に左右されると考えられる。

<応用基礎>

科目名	2022年度			2023年度			2024年度			2025年度		
	履修者数	修得者数	修得率	履修者数	修得者数	修得率	履修者数	修得者数	修得率	履修者数	修得者数	修得率
データサイエンス・AI基礎				199	189	95.0%	1396	1247	89.3%	1990	1805	90.7%
データエンジニアリング基礎				201	185	92.0%	1398	1266	90.6%	1996	1825	91.4%
Foundations of Data Science and AI				46	44	95.7%	97	90	92.8%	98	91	92.9%
Foundations of Data Engineering				48	46	95.8%	98	95	96.9%	99	90	90.9%
合計				494	464	93.9%	2989	2698	90.3%	4183	3811	91.1%

応用基礎レベルの受講者は、2024年度秋学期に引き上げた受講定員（400名→1000名）を維持したため、2024年度の2989名から4183名まで増加した。当科目は「オンデマンド形式」であり、「データサイエンス・AI基礎」「データエンジニアリング基礎」を合わせた申請数が約22000名であったことから、学生からの受講ニーズが伺える。

3) 課題・次年度方針

引き続き、履修者数のモニタリングをはかる。また、基礎レベルの受講者減への対応措置として、これまで「データサイエンス+Rプログラム」は「学習要覧」を用いて広報をしてきたが、お知らせ配信を行うなど、周知について強化を検討する。

2、学修成果

1) 評価の観点

当該項目は、授業アンケート（Q5）「あなたはこの授業の到達目標をどの程度達成しましたか」及び成績評価（単位修得状況）から自己点検評価を行う。

2) 現状と評価

2025年度の授業アンケート（Q5）ならびに成績評価（単位修得率）の結果は以下の通りとなった。

<基礎>

授業アンケート（Q5 あなたはこの授業の到達目標をどの程度達成しましたか）

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
達成できた	64	15.0%	61	13.0%	83	17.8%	89	28.6%
ある程度達成できた	200	46.9%	242	51.6%	235	50.5%	148	47.6%
どちらともいえない	104	24.4%	107	22.8%	85	18.3%	55	17.7%
あまり達成できなかった	32	7.5%	32	6.8%	37	8.0%	11	3.5%
達成できなかった	8	1.9%	8	1.7%	8	1.7%	2	0.6%
到達目標を知らない	18	4.2%	19	4.1%	17	3.7%	6	1.9%
総計	426	100.0%	469	100.0%	465	100%	311	100.0%

<基礎レベル>		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
科目名		修得率	修得率	修得率	修得率
情報技術と社会		84.1%	85.3%	83.9%	83.3%
情報倫理と情報技術		94.3%	96.2%	95.8%	93.1%
IR18-AE114 Data literacy for research design		85.3%	83.3%	62.5%	68.2%
Introduction to Experimentation		83.9%	75.8%	86.6%	79.4%
Professional Ethics		89.8%	95.7%	93.3%	91.9%
LAST2010 Special Lecture(Science and Technology)			91.3%	100.0%	88.9%
Algorithm and Programming		94.5%	2023年度以降は対象外		
Social Change With AI		87.5%	2023年度以降は対象外		
合計		87.3%	88.5%	88.1%	87.1%

基礎レベルについて、授業アンケート（Q5）に対して、「達成できた」と回答した学生が28.6%、「ある程度達成できた」と回答した学生が47.6%であり、合計で76.2%の学生が到達目標を達成できたと回答している。単位修得率は表の通りである。

<応用基礎>

授業アンケート（Q5 あなたはこの授業の到達目標をどの程度達成しましたか）

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
達成できた			16	29.1%	119	28.2%	88	27.9%
ある程度達成できた			24	43.6%	215	50.9%	145	46.0%
どちらともいえない			13	23.6%	49	11.6%	52	16.5%
あまり達成できなかった			1	1.8%	21	5.0%	18	5.7%
達成できなかった			0	0.0%	6	1.4%	5	1.6%
到達目標を知らない			1	1.8%	12	2.8%	7	2.2%
総計			55	100.0%	422	100%	315	100%

<応用基礎レベル>		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
科目名		修得率	修得率	修得率	修得率
データサイエンス・AI基礎			95.0%	89.3%	90.7%
データエンジニアリング基礎			92.0%	90.6%	91.4%
Foundations of Data Science and AI			95.7%	92.8%	92.9%
Foundations of Data Engineering			95.8%	96.9%	90.9%
合計			93.9%	90.3%	91.1%

応用基礎レベルについて、授業アンケート（Q5）に対して、「達成できた」と回答した学生が27.9%、「ある程度達成できた」と回答した学生が46.0%であり、合計で74.0%の学生が到達目標を達成できたと回答している。単位修得率は表の通りである。

3) 課題・次年度方針

基礎レベル、応用基礎レベルともにプログラムの学習成果としては一定の水準にあると考えられる。しかしながら応用基礎レベルの成績評価の有効評価率が一般的な科目と比べて高い点は引き続き課題と

して追及をはかる。

3、学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

1) 評価の観点

当該項目は、独自アンケート（Q3）「この授業の内容が身についたか？」及び成績評価（単位修得率）から自己点検評価を行う。

2) 現状と評価

2024年度の独自アンケート（Q3）の結果、ならびに成績評価（単位修得率）は以下の通りである。

<基礎>

独自アンケート（Q3_この授業の内容が身についたか？）

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
身についた	196	14.2%	113	13.7%	9	18.8%	10	25.6%
ある程度身についた	858	62.1%	500	60.7%	30	62.5%	24	61.5%
どちらともいえない	253	18.3%	155	18.8%	6	12.5%	4	10.3%
あまり身につかなかった	60	4.3%	41	5.0%	1	2.1%	1	2.6%
身につかなかった	15	1.1%	15	1.8%	2	4.2%	0	0.0%
総計	1382	100%	824	100%	48	100%	39	100.0%

※本アンケートは通常は授業期間後半（春学期は6月下旬頃、秋学期は12月中旬頃）に実施するが、2024及び2025年度は春秋ともに2月に実施した。

データサイエンス+Rプログラムでは、受講生に対し、独自でアンケートを実施している。基礎レベルにおける独自アンケート（Q3）について、87.2%の学生が肯定的な回答を示している。単位修得率は前掲の表の通りである。

<応用基礎>

独自アンケート（Q3_この授業の内容が身についたか？）

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
身についた			109	24.2%	45	29.4%	106	16.5%
ある程度身についた			294	65.3%	75	49.0%	439	68.4%
どちらともいえない			33	7.3%	15	9.8%	80	12.5%
あまり身につかなかった			11	2.4%	14	9.2%	13	2.0%
身につかなかった			3	0.7%	4	2.6%	4	0.6%
総計			450	100%	153	100%	642	100%

応用基礎レベルにおける独自アンケート（Q3）について、84.9%の学生が肯定的な回答を示している。単位修得率は前掲の表の通りである。

3) 課題・次年度方針

基礎レベル、応用基礎レベルともにプログラムの学習成果としては一定の水準にあると考えられる。

2025年度は2024年度に引き続き、基礎レベルの独自アンケートの回答率が低くなってしまった。これは授業の最終週で実施していたアンケートを授業終了後に行ってしまったことが原因である。次年度は授業期間に実施できるよう準備する。

4、学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

1) 評価の観点

当該項目は、独自アンケート（Q2）「この授業を他の学生にも薦めたいと思いますか？」から自己点検評価を行う。

2) 現状と評価

2025年度までの独自アンケート（Q2）の結果は以下の通りである。

<基礎>

独自アンケート（Q2_この授業を他の学生にも薦めたいと思いますか？）

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
10（大いに推奨する）	146	10.3%	78	9.5%	15	31.3%	7	17.9%
9	57	4.0%	36	4.4%	1	2.1%	1	2.6%
8	229	16.2%	127	15.4%	8	16.7%	8	20.5%
7	301	21.3%	165	20.0%	9	18.8%	11	28.2%
6	221	15.7%	122	14.8%	6	12.5%	5	12.8%
5	246	17.4%	144	17.5%	3	6.3%	5	12.8%
4	79	5.6%	43	5.2%	3	6.3%	1	2.6%
3	50	3.5%	50	6.1%	0	0.0%	1	2.6%
2	29	2.1%	29	3.5%	1	2.1%	0	0.0%
1	20	1.4%	12	1.5%	1	2.1%	0	0.0%
0（推奨しない）	33	2.3%	18	2.2%	1	2.1%	0	0.0%
総計	1411	100%	824	100%	48	100%	39	100%

※本アンケートは通常は授業期間後半（春学期は6月下旬頃、秋学期は12月中旬頃）に実施するが、2024及び2025年度は春秋ともに2月に実施した。

基礎レベルにおいて、独自アンケート（Q2）の結果について、肯定的な回答（10～6）の比率を確認すると、2025年度は82.1%となっており、推奨度は高い水準にあると考える。

<応用基礎>

独自アンケート（Q2_この授業を他の学生にも薦めたいと思いますか？）

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
10（大いに推奨する）			167	37.1%	36	23.5%	167	26.0%
9			36	8.0%	17	11.1%	54	8.4%
8			95	21.1%	35	22.9%	163	25.4%
7			72	16.0%	25	16.3%	116	18.1%
6			28	6.2%	4	2.6%	51	7.9%
5			30	6.7%	12	7.8%	52	8.1%
4			12	2.7%	4	2.6%	16	2.5%
3			6	1.3%	12	7.8%	10	1.6%
2			3	0.7%	1	0.7%	7	1.1%
1			1	0.2%	0	0.0%	2	0.3%
0（推奨しない）			0	0.0%	7	4.6%	4	0.6%
総計			450	100%	153	100%	642	100%

応用基礎レベルにおいて、独自アンケート（Q2）の結果について、肯定的な回答（10～6）の比率を確認すると2025年度は85.8%となっており、推奨度は高い水準にあると考える。

3) 課題・次年度方針

引き続き、受講生の推奨度が上がるよう、プログラム運営、授業運営に努めていく。

5、全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

1) 評価の観点

当該項目は、自己点検評価のため定めた履修率の目標値の達成状況から自己点検評価を行う。

2) 現状と評価

自己点検評価のため定めた目標値の達成状況は以下の通りである。

<基礎>

2025年度現在の目標達成状況は以下の通りである。

<参考 自己評価 目標値 基礎>	2022年度				2023年度				2024年度				2025年度			
	収容定員	履修率	目標値	差分	履修率	目標値	差分	履修率	目標値	差分	履修率	目標値	差分			
自己評価 目標値 基礎 (履修率)	31,933	5.4%	5.2%	0.2%	10.3%	10.4%	-0.1%	14.7%	16.2%	-1.5%	18.1%	21.2%	-3.1%			

*履修率の分母には収容定員を、分子には各年度の履修者を累計した値を使用

自己点検評価上の目標は、収容定員に対し、履修率が2022年度5.4%、2023年度10.4%、2024年度16.2%、2025年度21.2%である。いずれも累積履修者が分子である。

2022年度は5.4%、2023年度は10.3%、2024年度は14.7%、2025年度は18.1%となった。目標値との差分が拡大傾向にあり、履修を促す工夫が課題である。

<応用基礎>

2025年度現在の目標達成状況は以下の通りである。

学部	2023年度				2024年度				2025年度				
	収容定員	履修者数	履修率	目標値	差分	履修者数	履修率	目標値	差分	履修者数	履修率	目標値	差分
<応用基礎レベル/学部別集計>合計	31,533	436	1.38%	1.40%	-0.02%	2613	9.7%	7.60%	4.87%	3403	20%	10.30%	12.86%

*履修率の分母には収容定員を、分子には各年度の履修者(実数)を累計した値を使用

自己点検評価上の目標は、収容定員に対し、履修率が2023年度で1.40%、2024年度で4.80%、2025年度で10.30%である。いずれも累積履修者が分子である。

2023年度は1.40%、2024年度は9.7%、2025年度は20.0%であり、2024年度秋学期から受講定員を大幅に引き上げたにも関わらず、定員以上の受講申請が寄せられる状況が続いており、目標を大きく上回る結果となった。

3) 課題・次年度方針

課題は基礎レベルにおける受講者増である。受講者減への対応措置として、これまで「データサイエンス+Rプログラム」は「学習要覧」を用いて広報をしてきたが、まずはお知らせ配信を行うなど、周知について強化を検討する。応用基礎レベルは引き続きこの展開を維持する。

6、教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

当該項目は2027年度を目途に評価する。

7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

当該項目は 2027 年度を目途に評価する。

8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

1) 評価の観点

当該項目は、授業アンケート (Q3) 「あなたは、この授業で自主的な学習への意欲を促されましたか」及び (Q6) 「この授業は、あなたの学びにとって、どの程度役立ちましたか。」から自己点検評価を行う。

2) 現状と評価

2025 年度の授業アンケート (Q3) 及び (Q6) の結果は以下の通りとなった。

<基礎>

授業アンケート (Q3_あなたは、この授業で自主的な学習への意欲を促されましたか)

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
そう思う	82	19.2%	89	19.0%	108	23.2%	92	29.6%
ある程度そう思う	175	41.1%	202	43.1%	193	41.5%	135	43.4%
どちらともいえない	99	23.2%	111	23.7%	102	21.9%	57	18.3%
あまりそう思わない	48	11.3%	40	8.5%	42	9.0%	20	6.4%
そう思わない	22	5.2%	27	5.8%	20	4.3%	7	2.3%
総計	426	100.0%	469	100.0%	465	100%	311	100.0%

授業アンケート (Q6_この授業は、あなたの学びにとって、どの程度役立ちましたか。)

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
役立った	139	32.6%	165	35.2%	195	41.9%	146	46.9%
ある程度役立った	218	51.2%	211	45.0%	193	41.5%	133	42.8%
どちらともいえない	49	11.5%	64	13.6%	59	12.7%	20	6.4%
あまり役立たなかった	12	2.8%	21	4.5%	10	2.2%	8	2.6%
役立たなかった	8	1.9%	8	1.7%	8	1.7%	4	1.3%
総計	426	100.0%	469	100.0%	465	100%	311	100.0%

基礎レベルについて、授業アンケート (Q3) に対して、「そう思う」と回答した学生が 29.6%、「ある程度そう思う」と回答した学生が 43.4%であり、合計で 73.0%の学生が肯定的な回答をしている。

また、授業アンケート (Q6) に対して、「役立った」と回答した学生が 46.9%、「ある程度役だった」と回答した学生が 42.8%であり、合計で 89.7%の学生が肯定的な回答をしている。

<応用基礎>

授業アンケート (Q3_あなたは、この授業で自主的な学習への意欲を促されましたか)

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
そう思う			16	29.1%	136	32.2%	98	31.1%
ある程度そう思う			27	49.1%	174	41.2%	139	44.1%
どちらともいえない			12	21.8%	70	16.6%	44	14.0%
あまりそう思わない			0	0.0%	28	6.6%	21	6.7%
そう思わない			0	0.0%	14	3.3%	13	4.1%
総計			55	100.0%	422	100%	315	100%

授業アンケート (Q6 この授業は、あなたの学びにとって、どの程度役立ちましたか。)

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
役立った			21	38.2%	180	42.7%	124	39.4%
ある程度役立った			28	50.9%	171	40.5%	145	46.0%
どちらともいえない			6	10.9%	43	10.2%	27	8.6%
あまり役立たなかった			0	0.0%	17	4.0%	12	3.8%
役立たなかった			0	0.0%	11	2.6%	7	2.2%
総計			55	100.0%	422	100%	315	100%

応用基礎レベルについて、授業アンケート (Q3) に対して、「そう思う」と回答した学生が 31.1%、「ある程度そう思う」と回答した学生が 44.1%であり、合計で 75.2%の学生が肯定的な回答をしている。

また、授業アンケート (Q6) に対して、「役立った」と回答した学生が 39.4%、「ある程度役だった」と回答した学生が 46.0%であり、合計で 85.4%の学生が肯定的な回答をしている。

3) 課題・次年度方針

多くの学生が学ぶことへの意欲を感じ、また学びが役立ったと回答していることから、高い水準で数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を感じていると考えられる。引き続き、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を継続的に感じさせられるプログラム展開を目指す。

9、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

1) 評価の観点

当該項目は、授業アンケート (Q9) 「この授業内容や課題・小テストの分量についてどのように感じましたか」、(Q10) 「この授業では、質問や課題・小テストに対する適切なフィードバック (回答・解説・コメント等) が十分に行われていましたか」、FD の実施状況から自己点検評価を行う。

2) 現状と評価

2025年度の授業アンケート (Q9) 及び (Q10) についての結果は以下の通りとなった。

< 基礎 >

授業アンケート (Q9 この授業内容や課題・小テストの分量についてどのように感じましたか)

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
多かった	27	6.3%	34	7.2%	60	12.9%	39	12.5%
やや多かった	64	15.0%	75	16.0%	92	19.8%	63	20.3%
適切な量であった	304	71.4%	344	73.3%	289	62.2%	198	63.7%
やや少なかった	21	4.9%	9	1.9%	10	2.2%	6	1.9%
少なかった	10	2.3%	7	1.5%	14	3.0%	5	1.6%
総計	426	100.0%	469	100.0%	465	100%	311	100.0%

授業アンケート (Q10_この授業では、質問や課題・小テストに対する適切なフィードバック (回答・解説・コメント等) が十分に行われていましたか)

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
そう思う	85	20.0%	79	16.8%	106	22.8%	111	35.7%
ある程度そう思う	151	35.4%	165	35.2%	169	36.3%	92	29.6%
どちらともいえない	116	27.2%	148	31.6%	122	26.2%	75	24.1%
あまりそう思わない	47	11.0%	45	9.6%	44	9.5%	25	8.0%
そう思わない	27	6.3%	32	6.8%	24	5.2%	8	2.6%
総計	426	100.0%	469	100.0%	465	100%	311	100.0%

基礎レベルについて、授業アンケート (Q9) に対して、「適切な量であった」と回答した学生は63.7%であった。

また、授業アンケート (Q10) に対して、「そう思う」と回答した学生が35.7%、「ある程度そう思う」と回答した学生が29.6%であり、合計で65.3%の学生が肯定的な回答をしている。

<応用基礎>

授業アンケート (Q9_この授業内容や課題・小テストの分量についてどのように感じましたか)

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
多かった			0	0.0%	33	7.8%	32	10.2%
やや多かった			4	7.3%	79	18.7%	75	23.8%
適切な量であった			46	83.6%	300	71.1%	200	63.5%
やや少なかった			5	9.1%	8	1.9%	7	2.2%
少なかった			0	0.0%	2	0.5%	1	0.3%
総計			55	100.0%	422	100%	315	100%

授業アンケート (Q10_この授業では、質問や課題・小テストに対する適切なフィードバック (回答・解説・コメント等) が十分に行われていましたか)

回答	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
そう思う			17	30.9%	106	25.1%	60	19.0%
ある程度そう思う			11	20.0%	124	29.4%	90	28.6%
どちらともいえない			15	27.3%	92	21.8%	84	26.7%
あまりそう思わない			12	21.8%	50	11.8%	41	13.0%
そう思わない			0	0.0%	50	11.8%	40	12.7%
総計			55	100.0%	422	100%	315	100%

応用基礎レベルについて、授業アンケート (Q9) に対して、「適切な量であった」と回答した学生が63.5%と高い水準を維持している。

また、授業アンケート (Q10) に対して、「そう思う」と回答した学生が19.0%、「ある程度そう思う」と回答した学生が28.6%であり、合計で47.6%の学生が肯定的な回答をしており、他と比べるとやや低い数値となっている。当該授業は「オンデマンド形式」であり、双方向性の担保には工夫を凝らしている。具体的には、LMSを通じた質疑応答、質問が多かった内容は掲示板にてQ&Aの形式で掲載するなどを実施したが、引き続き双方向性の担保については追及が必要である。

<FDの実施>

2025年度には、本プログラムの構成科目として開講しているオンデマンド型授業をテーマに、「「オンデマンド授業で探る大規模講義と教育効果の両立—学生は本当に学んでいるの?—」と題したフォーラムを実施した。本フォーラムでは、試行的に導入しているAIを活用した口頭試問試験なども事例

の1つとして取り扱いながら、オンデマンド型かつ大規模講義においても受講生が能動的な学びを提供する可能性について、学外者も交えながら事例紹介と意見交換を実施した。

3) 課題・次年度方針

引き続き、本年の展開内容を踏襲し、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業運営を目指していく。

10、その他（年度固有の事象などがあれば記載）

10-1 オープンバッチの展開について

「データサイエンス+Rプログラム」では、オープンバッチネットワークへ加盟し、修了生にオープンバッチを発行している。ここではオープンバッチの発行状況（=プログラム修了者数）について、記載する。

1) 評価の観点

特になし

2) 現状と評価

データサイエンス+Rプログラムは2023年度より修了者を輩出している。各年度末時点の累計修了者数は下表のとおりである。

年度	累計修了者数
2023年度	15
2024年度	84
2025年度	188

3) 課題・次年度方針

引き続き、修了者数のモニタリングをはかる。また、1、プログラムの履修・修得状況でも記載しているが、受講者減への対応措置として、これまで「データサイエンス+Rプログラム」は「学習要覧」を用いて広報をしてきたが、お知らせ配信を行うなど、周知について強化を検討する。

以上